# 元気な街 はむら!
# とみまつたかしの議会報告

冨　松　崇

議会内会派：新政会市民クラブ
住所：羽村市羽東2-3-6
発行：とみまつたかし後援会

早いもので議員となり2年が経ちました。最初の1年は議会に慣れることから始まり、毎日が勉強でした。2年目に入り議会の流れもひと通り経験させていただきましたので、今度はどのように結果を出していくのかを考え活動させていただきました。3年目となる今年からは10年後、20年後、将来の羽村を考え、現役世代の代表としてみんなが元気で安心して暮らせる街を実現するためにさまざまな議員活動に取り組んでまいります。

## 平成25年第1回3月定例会での一般質問

### ◇ 次世代に羽村のまちづくりを引き継ぐために

質問　市で設置している各審議会の年齢構成は。

市長　３８機関、平均年齢は５９歳となっており、年代別構成は、２０歳代が３人、３０歳代が７人、４０歳代が６１人、５０歳代が１１９人、６０歳代が１４５人、７０歳代が６８人、８０歳代が７人となっている。

質問　市政世論調査で市政への参加・協働意向で参加をためらっている、わからないが上位を占めているが市ではどのように考えているか。

市長　若者の市民参画に対する意識と関心の低下が顕著になってきているものと捉えている。多様な市民参画の推進を図る観点から、若者の意見を聴く機会として、若者ﾌｫｰﾗﾑの開催に向けて、平成２５年度に実行委員会を設置し、準備を進めていく。また、引き続き、大学との連携により若者の視点を取り入れた事業を展開していく考えである。

質問　これからの街づくりを考える中で今後、中心となっていく現役世代の方に市政への興味・感心を持ってもらい積極的に参画してもらう事が重要だと思うが市の考えは。

市長　市政への理解を深め市民参画を促進していくためには多様な媒体を活用した分かりやすい情報発信が重要であり、広報広聴活動の充実に向けて検討を進めていく考えである。

質問　これから街づくりを引き継ぐ次世代の人材を育てていく事も重要だと思うが市の考えは。

市長　羽村の発展を考えた場合、次世代に引き継ぐ施策を展開していくことは、市の重要な責務であると捉えている。

# 平成24年第5回12月定例会での一般質問

## ◇ 観光振興でにぎわいのある街に

### ○ 現在の状況について

質問　観光協会・産業課等の役割分担はどのようにされているのか。
市長　観光協会は観光振興を担う機関として、観光客誘致及び観光資源の保全・開発等を行うことにより、地域経済の活性化及び文化の向上を目的として各種事業を実施している。一方、市では産業課を窓口として市内観光の振興、地域の活性化に取り組んでいる。

### ○ 今後の計画について

質問　行財政改革基本計画にある「羽村PR作戦の創設・展開」とあるが進捗状況は。
市長　本年８月に市、商工会、商業協同組合、観光協会等と連携した「羽村市ｼﾃｨﾌﾟﾛﾓｰｼｮﾝ会議」を立ち上げるための準備会を発足した。産業祭会場においては、羽村市の魅力及び特産品について市民の皆様の意識を調査するアンケートを実施し、調査結果につきましては今後、ＰＲ作戦を展開する上での参考資料として活用していく考えである。
質問　駅前に観光案内所の設置をする考えはないか。
市長　市全般の観光案内が容易に行えるようになり、名産品の販売やレンタサイクルなどの実施にも役立つことが考えられますので、その設置に向けて現在検討している。

# 平成24年第3回9月定例会での一般質問

## ◇自動体外式除細動器（ＡＥＤ）の設置状況と今後の計画について

### ○ 現在の設置状況について

質問　市内公共施設の設置状況は。
市長　市役所、ゆとろぎ、スポーツセンター、各小中学校など、２４施設に設置している。
質問　地域集会施設等の設置状況は。
市長　地域集会施設にＡＥＤは設置しておりませんが地域活動の拠点であることから必要性が高いものと判断しており、設置することについて管理の方法等も含め検討している。
質問　設置場所の周知はどのようにされているのか。
市長　羽村市防災マップ等で周知を図っているほか、ロゴマーク入りのステッカーを掲示しております。

防災マップへAEDを設置して貸出可能な市内事業所も表示されました。

### ○ 今後の設置計画や管理体制について

質問　設置場所を増やす計画は。
市長　未設置の公共施設について、設置の必要性等を検証したうえで、計画的に設置していきたいと考えている。
質問　はむらん・青パトへの設置は。
市長　はむらんは不特定多数の方、特に高齢者の利用が多いことなどから、西東京バスと設置できる方向で協議をしていきます。また、青パトについても市民パトロールセンターはむらと設置できる方向で協議を行っていきたいと考えている。

25年度予算にはむらんと青パトへAEDを設置する予算が計上されました。

# 平成24年第2回6月定例会での一般質問

## ◇ 羽村市の情報発信について

質問　市の情報発信はどのようなツールを使っているのか。
市長　市では「広報はむら」を市政情報提供の最も基本のツールとして「テレビはむら」での映像広報、緊急時などに活用する防災行政無線やエリアメール、即時性や情報量に優れたホームページやメール配信サービスの活用など、多様な広報媒体を駆使して、幅広い年代の要請に応じた市政情報の発信及び提供に努めている。

質問　情報発信ツールでの問題点・不便だと感じるような事は。
市長　それぞれ長所や短所があるが、相互に補完しあうことで市民ニーズに対応しているものと考える。

質問　第五次長期総合計画にある「インターネットを活用したソーシャルネットワークづくり」とは、どのような場を提供する考えなのか。
市長　ソーシャルネットワークは、インターネットを活用した情報交換の場として、地域コミュニティを醸成する場、羽村をＰＲするツールとして活用に向けて研究していきたいと考えている。

質問　他の自治体でも導入されるところが増えているフェイスブックやツイッターのようなソーシャルネットワークサービスを、情報発信のツールとして新たに導入する考えは。
市長　導入に向けて、運用の方法や費用対効果など総合的な検討を進めていく。

# 平成24年第1回3月定例会での一般質問

## ◇ 地域経済を活性化する施策について

質問　市が行っている市内企業・商店への支援活動の成果をどのように分析・把握しているのか。
市長　「融資制度により新たな機械を導入」「コストの削減や業務の効率化が図られた」「新規顧客の獲得や市場開拓に繋がった」「社員のスキルアップが図られた」など、市の支援が企業や商店の経営の向上に寄与しているものと考えている。今後も継続的に実施するとともに、新たな支援措置を講じるなど、商工業の振興に努める。

質問　現在の農商工連携の推進による事業の状況は。
市長　市内農家が生産した農産物を商業者が商品に使用するなど、農業者と商業者とのマッチングがいくつも実現されている。今後も、このような連携が深まるよう積極的に支援していく。

質問　コミュニティビジネスの推進をどのように図っていくのか。
市長　コミュニティビジネスに取り組む団体や個人に対し、課題に応じた個別支援を行っていく考えである。

質問　地域経済を活性化する新しい施策の計画は。
市長　市内企業や商店を取り巻く経営環境は依然として厳しい状況にあり、さらなる支援策の必要性を強く感じている。市内事業者による省エネルギー工事等に対する新たな助成制度を設け、二酸化炭素の排出抑制を図るとともに、市内企業の活性化に繋げていきたい。

# 第7回「全国市議会議長会研究フォーラム」に参加

10月10～11日 全国市議会議長会研究フォーラムが開催されました。一日目は片山善博　元総務大臣が「地方議会の課題と議会のミッション」と題し基調講演を行いました。その後、佐々木信夫　中央大学経済学部教授がコーディネーターを務め「地方議会における政策形成の在り方について」と題するパネルディスカッションがパネリスト江藤俊昭　山梨学院大学法学部教授・金井利之　東京大学公共政策大学院教授・坪井ゆづる　朝日新聞仙台総局長東北復興取材センター長・寺井克之　松山市議会議長の4名で行われました。二日目は牛山久仁彦　明治大学政治経済学部教授がコーディネーターを務め、事例報告を平田武　南相馬市議会議長・渡邊武　名取市議会前議長・伊藤明彦　陸前高田市議会議長が行いその後、コメンテーターの中邨章　明治大学名誉教授（日本自治体危機管理学会会長）を加えて「大震災における議会の役割」と題する課題討議を行いました。

下高井戸商店街視察

東京都市議会議員研修会

戸越銀座商店街視察

区画整理事業視察（愛知県）

## ご要望が実現できました。

歩行者がつまずく危険性があり、またショッピングカーやベビーカーも走行困難なU字溝蓋の段差を修繕していただきました。

## 6月定例会のお知らせ

| | | |
|---|---|---|
| 6月10日（月） | 本会議（初日） |
| 11日（火） | 本会議（2日目） |
| 12日（水） | 本会議（3日目） |
| 13日（木） | 本会議（4日目） |
| 19日（水） | 常任委員会 |
| 20日（木） | 常任委員会 |
| 27日（木） | 本会議（最終日） |

## 皆さんの声をお聞かせください！

私は市民・地域の声が届く開かれた市政をめざし、市民と行政が協働した街づくりが行えるように全力で取り組んでまいります。皆さんのご意見・ご要望をお聞かせください。

とみまつたかし後援会
〒205-0014　東京都羽村市羽東2-3-6
E-mail:takashi@tomimatu.co.jp
TEL:042-555-7093 / FAX:042-555-7094